

2022年度 武蔵野学芸専門学校 事業報告

(2022年4月1日～2023年3月31日)

(担当者：校長 三上慎之介)

●在籍者数 (2023年5月1日現在)

(単位：名)

課程	専門課程	高等課程	計
学科	国際コミュニケーション学科	国際芸術学科	
入学定員	60	40	100
収容定員	120	120	240
新1年生	69	33	102
新2年生	32	30	62
新3年生	-	27	27
計	101	90	191

I. 2022年度の事業概要

- ① 専門課程では、難関美術進学、編入、大学院進学、作家活動、就職などの多岐に分かれる美術の進路に対応した本校独自の体制を整えてきた。2022年度においては、就職対策の強化を図り株式会社 ADK ホールディングスによるキャリアセミナー、株式会社アニメイトホールディングスによる企業説明会、合同企業説明会を実施した。また、電通デザイナー 今井祐介氏、ペーパーアーティスト 伊藤航氏、漫画家 丸山恭右氏、森茶氏などによるプロのデザイナー、アーティストなどに授業へ参加いただき、特別授業を実施したことによって、様々な進路を選ぶことができるカリキュラムを実現した。
- ② 高等課程でも、サンリオデザイナー特別授業や株式会社 YAMAHA 発動機 デザイナー特別授業など企業による連携授業を充実させ、同時に東京藝術大学、多摩美術大学、女子美術大学との大学連携授業を強化することで、多様化する生徒のニーズに対応した進学教育の強化を行った。

事業目的項目		達成度
1	(1) 企業連携授業による教育力の強化	達成率 90%。連携企業 8 社による特別授業（電通、サントリー、サンリオ、Cygames、YAMAHA 発動機、宮内不朽堂、G-too、天才デザイン）、アーティスト・デザイナー（7 名）による特別授業を実施。
2	(2) 広報体制の強化	達成率 90%。SNS 広報活動（Twitter、Instagram 等）を強化するとともに進学サイト、YouTube、MEO 対策により、資料請求者数を 20% 増（450 件）。同時に卒業生、在校生の満足度を上げることで友人、知人入学者紹介制度による募集強化を図った。
3	(3) 難関美術大学進学	達成度 85%。東京藝術大学 1 名、多摩美術大学 10 名、武蔵野美術大学 7 名など美術大学に 58 名の合格者を輩出。

II. 2022年度の取り組み

1. 2023年度入学生募集活動 入試状況

課程名	受験者数	入学者数
専門課程	87 名	66 名
高等課程	36 名	33 名

<募集活動における課題と改善策>

- (1) 専門課程オープンキャンパス 107 名参加、高等課程オープンスクール 91 名参加

(2) 専門課程においては、日本人入学者が 14 名になり微増したが、まだまだ日本人に対しての認知度が低い。そのため、2023 年度は魅力的な体験授業の構築を行い、日本人からも支持される学校づくりを行いたい。また、高等課程では専願者を増やすための広報活動、在校生による学校説明などの募集対策を行い宣伝強化と改善を行う。併せて、高等課程においては編入希望者の獲得に向けた広報活動についても拡充する。

2. 2022 年度に実施した新たな事業内容の結果と 2023 年度への課題

事業目標	事業内容	2023 年度への課題
(1) 教育連携授業の強化	東京藝術大学サマーキャンプ、女子美術大学オータムキャンプの実施による教育連携の充実。	日本大学芸術学部との教育連携により、関東 5 美術大学と連携を行う唯一の美術学校として成長させる。
(2) アーティスト育成	両課程合同でのデザインフェスタ出展。卒業制作展示では電通デザイナー今井祐介氏、武蔵野美術大学准教授小林耕平氏による公開講評を開催。	寺田倉庫 what cafe、佐藤美術館 立島恵氏とのアート連携による本校教員作品展示、また卒業生と在校生による定期的な展示活動の支援を行う。
(3) 特別活動・課外活動	「武蔵野学芸専門学校本館の地下テラスの壁面を壁画アートで埋め尽くそう」を企画。各課程での積極的な美術館見学の実施。	専門課程の写生合宿の実施。銀座ギャラリー巡りなど校外実習を増やすことで、自分で調査し、観察、表現できる人材を育成。

Ⅲ. 教育成果

1. 主な進学・進路先

東京藝術大学 1 名、多摩美術大学 10 名、武蔵野美術大学 7 名、東京造形大学大学院 1 名、東京造形大学 1 名、女子美術大学 9 名、女子美術大学短期大学部 3 名、日本大学芸術学部 3 名、島根大学大学院 1 名、京都芸術大学大学院 1 名、京都芸術大学 5 名、神戸芸術工科大学大学院 3 名、大阪芸術大学大学院 1 名、大阪芸術大学 1 名、東京工芸大学 3 名、京都精華大学 2 名、東北芸術工科大学 1 名、横浜美術大学 1 名、文化学園大学 1 名、文星芸術大学 2 名、成安造形大学 1 名

2. その他特筆すべき事業成果

項目	事業内容・結果
(1) バーベキュー大会	コロナ禍ではあったが、感染予防を徹底しながらイベントを実施することで、生徒に癒しを与えた。
(2) 公募展への参加	高等課程の生徒では環境ポスターコンクールをはじめ、多くの公募展に出品することで自分の可能性を試した。また、専門課程学生では漫画の公募に出品し、プロの漫画家としてデビューするなど多くの実績を残した。
(3) 文化祭（瑞花祭）	今年で 5 年目を迎えた文化祭は、缶バッジ作りなどの新しいイベントを増やしたことで、多くの参加者が気軽にアートを体験できた。文化祭は多くの学生、生徒を大きく成長させる行事に成長した。
(4) 武蔵野学芸美術教育研究所 第 5 回研究会実施	増田哲也理事長、所長 立島恵所長、中村美知枝副所長、他 6 名で開催した。研究会では、本校の教育内容に関する報告、協議、検討、及びアーティスト支援についてご意見を伺った。

以上